

新聞面會



本年五月七日滋賀
縣下第九區大川町滋賀
新聞社々中古川某午後
六時退社の
途中俄
大雹降り
出指たる
傘も打ぬるを殆難儀
不及ひし其目方ハ
三夕余有し由又同ト
日こ當つて下野國那
須郡船沢村近辺暴雨雷鳴大雹地上に積事大余り其経リ一寸
ふり四寸に至る雉免の類うれて死る事數えれずと
越後国十一大區の村々々々同日午前十一時より二時間
斗ふ雹の積事三四寸又過くと仙臺の人莫耶某
の報こも同日白山駅の東南棚倉街路鍋掛の間最甚しく老若男女傷と
蒙る者數多かり三人濱松縣下東海道白須賀駅の在岡崎村の原と之処の
近傍より五月廿三日悪風暴雨雷鳴雹とふらし士族某の長屋の棟木を
折り或ハ棟木を倒したりと雹の大ききハ七八歩より一寸に至ると又六月
一日も朽木縣下六千石村辺午後三時天俄みかき曇り霹靂雷電

○強雨金也
震かしく後變ト
電もちり其経一寸斗有しと
同所山村氏の報あり下



より△文化の世より具りの不思議
もふきあらず其原由を
知んと思ひ究理
學を勉強
しよ

柳櫻茂之助

八尾善蔵